

10819 14 de Abril

DIRECCION:
USPALLATA 981
U. T. 28-7051, B. O.

EL "ARGENTIN DJIJO"

AÑO XV

FRANQUEO PAGADO
CORREO ARGENTINO
TARIFA REDUCIDA
CONCESION 718

大阪商船會社指定
三等乗船切符仲次所
大阪商船會社社務部客御送迎と就
ては懇切迅速に御便宜を御取計
申可候間御達意なく下記へ
御用命賜度候



船脚用商
森川塩澤商店
PASSEO COLON 470
U. T. 33-4171
U. T. 33-4808

OSAKA SHOSEN KAISHA

Av. U. T. 33, AVENIDA 1051 - 1052 - 1053 - 3565
COOPERATIVA CENTRAL 2047
BUENOS AIRES

●北米パナマ線由日本行(一年十四回)横濱まで 四十七日 (A型) 以上のすゝあし十九
●北米パナマ線由日本行(一年十四回)横濱まで 四十七日 (B型) 以上のすゝあし十九
●アフリカ線由日本行(一年一回)門司まで 六十日 以上のすゝあし十九
●アフリカ線由日本行(一年一回)門司まで 六十日 以上のすゝあし十九

●小兒運賃 旅券記載生年月に依り満十二歳未満「半額」、満七才未満「四分
ノ一」満三才未満無賃、満四才以上亞細亞生れの方は 亞細亞旅券必要
●乗船支拂 日本行運賃は全部米弗貨建てです。一等は乗船切符買求め當日の
換算率、二等は本船入港當日の換算率(何れも自由市場率)に依り運賃にて
を拂ひ願ひます。一等は定額運賃(割)の出國税が掛ります。(二等は無税)
●歸國手續 旅券面に日本領事の査証が要ります。三等客は乗船前乗船手
の健康診断を受け下す。切符は本船入港當日から出帆前日迄發賣
日本より御呼寄の便法當地にて乗船支拂あれば乗船券引換証書上ま
す。但し移民局發給入國許可証及日本領事館發給呼寄証明書持参下さい
●鐵道省乗車券發行 日本第一港から本船切符の上陸港迄鐵道省流車乗換
の場合船便の代りに乗車券贈呈
●弊社内航線切符發行 弊社内航線寄港地を目的とする、場合參等内航線切
符贈呈(但し沖繩、參等五割引)

貨運松乘

船種	日本	日本より
A型	米貨 四五〇弗 特三(和) 一五七弗	英貨 九三弗
B型	全 四〇九弗 特三(洋) 一三六弗	洋食英貨 三七弗
南阿船	全 三三二弗 特三(和) 一四三弗	和食 二百廿五弗
全	全 三三二弗	全 七七弗

大阪商船

亞市然丁時報

DIARIO JAPONES
Director: T. MIDZUNO
Redacción: USPALLATA 981
U. T. 23, Buen Orden 7051
BUENOS AIRES

TARIFA DE SUBSCRIPCION
Un mes \$ 2.-
Tres meses " 6.-
Seis meses " 12.-
Un año " 24.-

YAMASHITA LINE

FAR EAST-NEW YORK-SOUTH AMERICA SERVICE
AGENT
CHADWICK, WEIR & Cía.
25 DE MAYO 516 U. T. 31-0026-29

"K" LINE

KAWASAKI KISEN KAISHA Ltd.
KOBE, JAPAN
Representantes
J. E. TURNER & Co. S. A.
RECONQUISTA 325 U. T. 31-3491-3

キリスト教青年ホーム
ペンシラン 定期又は一時的
聖書の研究 毎土曜日午後八
郵便物取次 時より即來会自由
奉仕致します
守屋保吉

C seros 1983
U. T. 23-9872

Semillería EL COLONO

ABONOS :: HORMIGUICIDAS :: INSECTICIDAS
IMPLEMENTOS AGRICOLAS
SEMILLAS Y PLANTAS
J. S. GAGO
IMPORTACION DE SEMILLAS
EN GENERAL
HERRAMIENTAS PARA JARDINES
GENERAL HORNOS 58
U. T. 23 BUEN ORDEN 7101
BUENOS AIRES
PIDA CATALOGO GENERAL

優秀船八隻就航
日本向け貨物迅速丁寧に取扱致します
川崎汽船株式會社

川崎汽船西廻世界一周航路
横濱比律賓海峽植民地印度及紅海沿岸諸
港之支那河經由加奈隆北米伯利西爾亞爾然丁
亞爾然丁伯利西爾巴奈馬運河經由太平洋
岸諸港・橫濱

TALLER
MECANICO

de G. GONZALEZ

プラシナヤ機
カルデラの
修繕其他

SAN JOSE 220

U. T. 38 - 5923

時計修繕
電話で御一報次第参上致します
市内カビルド街一七七八
電話(五二)〇九三三
守屋利夫

CABILDO 1178

U. T. 52-0933

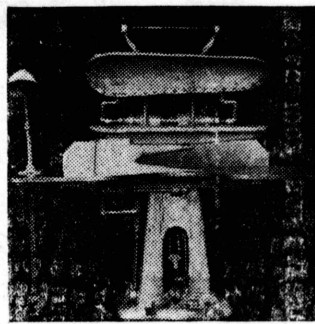
齊藤染色工場

設備完全
仕事入念

邦人間唯一の
染色工場

BELGRANO 3061

U. T. 45 - LORIA 5442



Av. La Plata 1416

U. T. 60 - 9421

新。ミニヤ機
TBP
カルデアセント
リファグ・ケイコ
のフランチャイズ機
製造販賣修繕
高橋秀雄

自宅出張撮影
複写引伸し
如何に高品質でも御引受け致す
寫真師 佐藤貞則

SALTA 158

U. T. 37-3704

TOYOKEN

25 DE MAYO 356

U. T. 31 - 0739

東洋軒
料理部
純日本料理
折詰弁当
丼物・切類
畫食
配達致し
相変らず
作引立を

Masajista Japonés

SEGUROLA 1992-6

U. T. 67 - 4591

日本式マッサージ鍼灸
リウマチス・神経痛・時呼吸器病
胃腸病その他一切の疾病・幼
日本書道は西坂商店で
取次願ってかまはず
山田忠重

GRAN PREMIO EXPOSICION DE LA
INDUSTRIA ARGENTINA 1983 - 84

BILLARES BRUNSWICK
BANDAS MONARCH
ULTIMA NOVEDAD "SNOOKER"

Solicite informes



Gia. Brunswick Sudamericana S. A.

1894 - CANGALLO - 1900
U. T. 47, Cuyo 3577 - Buenos Aires

MATSUYA HOTEL

TACUARI 580
U. T. 34 - 1344

親切丁寧
顧客本意
浴室完備
まつや旅館
料理任まじり物一
日本菓子製造致す
の会食に應じます

だま亭
▲丼物一品料理仕出し
すし・かまぼこ・饅頭・煮出し
御膳・御誕生の祝儀
御注大に應じます
松田清市

BOLIVAR 1556
U. T. 23 - 4092

"PLATA BRAUN" MARCA
REGISTRADA



カフェ・バー
レストラン用の
マル製品の
御用命は日本人間
に絶大の信用ある
ZANUSSEN
日賦神の御註文に
應じます

BERNARDO BRAUN e HIJO

CORRIENTES 4349 U. T. 54, Darwin 4111

A L M A C E N

NISHISAKA

AUSTRALIA 1101

U. T. 21-2915

醬油・味噌
澤巻・香物 製造販賣
日本食料品輸入販賣
垂平万壽油
値段勉強配達迅速
西坂賣本商店

Ernesto Coco

15 DE NOVIEMBRE 2335

U. T. 23 - 2835

ケロセン廉賣
永年日本人洗濯店
並に御家庭の
御最良を蒙つて居ります

領事館銀行・船会社と近く
御乗船御下船の便
御下宿
御旅館
地方より出武の御日は是非御寄願す
昭和館

25 DE MAYO 330

U. T. 31 - 5145

BUENOS AIRES

"KEROGAS"

Ing. F. STUCKLER

U. T. 51-3252 PACHECO 3260

最新型ケマド・ガス及び
タンク・エア・フレッシオン
製作販賣
諸種ケマド・ガス・部分品
販賣・日本人間にも多数顧客
在りし仕事は入念迅速・電話
で御一報次第至急参上致します

TALLER GRAFICO

NIPPON

SANTIAGO DEL ESTERO 975

U. T. 23 - 7864

刷印版活文西
堂ニポツニ

種各他其・刺名簡詩等便
寸上取命用御拘平の寸多

総 川 北

芝罘襲撃の大陰謀発覚 主謀者銃殺せられん

(東京十三日)長崎芝罘襲撃より十二日外務省への入電により抗日遊撃軍芝罘襲撃の大陰謀が発覚した。

四月二日、期して匪賊三頭目の配下約二十五名の抗日遊撃軍が支那刺殺隊を連累内にして日本領事館芝罘市公署、公安司、中野銀行、市長官舎などを襲撃する計画があることと発覚した。

右領事館警備隊は陸隊と連

我々の艦隊に英米のデマ宣傳又々流布!

日本は海洋戦術の革命的变化を齎す超弩級巡洋艦隊を建造中だ。

我々の艦隊に英米のデマ宣傳又々流布!

(東京十三日)U.P.通信社華南支局は十二日米朝海軍省が日本政府の艦隊計画について公報を授けしと報告し、日本の大艦建造中なる旨を流布し、U.P.通信の報ずる艦隊内容は正の通りである。

日本政府は目下超弩級巡洋艦隊を建造中である。この艦隊は従来の巡洋艦隊に比し、航速が速く、航程が長く、射撃力も極めて強くなる。また、この艦隊は日本の海軍力の増強に大きく貢献するものと見られる。

建設デマに対する海軍の見解
「この宣傳は二度出た幽霊だ」といふ意味が深い。

又デマ建設案が今度海軍省に提出された。これは、海軍省が建設案を提出したという噂が流布されたことに対する見解である。

外國通信社の捏造報道
我が外務省情報部長一覽

對支借款に奔走中の孫科はこぼす...
英政府は冷淡だ

「軍艦マーチ」愛國行進曲の瀬口氏表彰される

結し、廿七日匪賊の潜伏場所を襲撃し、副隊長以下五名を捕縛し、隊員取調の結果、公安司員中の石橋隊の連累せられたものがある。この結果、依つて陸隊及び領事館警備隊の結果、陰謀の主謀者たる抗日遊撃隊長並に匪賊三名を銃殺、公安司及び陸隊を武装解除する事と決定した。

（華南十二日）ウォルシユ米國上院海軍委員長は十二日ロンドンに於て、日本の艦隊計画は、従来の十一億四千百万円を越え、更に一億四千万円を追加し、総額十二億八千万円に達する予定である旨を言明した。

GRAN DESPENSA
"EL LUCHADOR"
DE
CESAR AUDICIO
G. UGARTE 439 U. T. 808 Lomas
LLAVALLOL R. C. S.
IRA SUCURSAL:
MORENO Y 25 DE MAYO U. T. 117 CAJUELAS
2DA SUCURSAL:
ALSINA Y ETCHEGOYEN U. T. 66 BURZACO

食料品卸小売
良品廉價販売
特別日本人諸君には大
歓迎致します。

「ハバ(SIA)」石炭
は井戸水(塩水)用者
として理想的です。
是非一度御試用下さい。

特殊任務
（倫敦十二日）倫敦特使在中の團長政府特使孫科は十二日夕刻、下院首相室にナニバレン首相を訪問して、長時間に亘り会談した。

（東京十三日）古くは「軍艦マーチ」新らしくは愛國行進曲の作曲者瀬口貞吉（七）の最初のことである。

我が海空軍の長沙爆撃で

蒋介石、宋子文、張治中爆死？

敵の中央軍政指揮處壊滅す

(上海十二日)我が海軍航空隊は十日長沙を爆撃し、軍事機密を克復せしむべくに破壊せしめたるが、この日長沙は新に敵の立派な軍官学校の開校式が挙行されてゐる。同学校は爆撃命で死者五十五名、負傷者百五名を出し、式場もあつた蔣介石、宋子文、張治中等は十二日に至るも消息全く不明で、その生死予断す可からず、或は爆死したののではないかと見られ、長沙方面では大動揺を起してゐるが、支那側では逸早くこの事実を隠蔽すべく、我軍の長沙爆撃は湖南・咸寧両大学校舎に命中、文化施設の破壊である逆宣傳に躍起となつてゐる。

海軍当局談

(東京十二日)右に開く我が海軍当局では十一日の如く語つた。

「長沙爆撃は敵の中央軍政指揮處を第一撃に壊滅せしめ、ついで蔣介石以下の要人を爆撃し、當時現地はるたことは相當確實性がある、支那は湖南、咸寧...

華西大学爆撃を文化施設の破壊だと宣傳してゐるが、兩大字は中身は既に昆明に移転し、長沙に在る建物は中央軍政指揮處及び兵工廠などに變更し、全く軍事施設となつたもので、蔣介石以下は軍事機密の便中、あつたものは町の奥へ中であらうと学校であらうと容赦する必要はない。

最近の敵軍状況並に治安状況

我が山西作戰遺憾無く威力發揮

(北京十二日)我が山西作戰は遺憾無くその威力を發揮し、敵大部隊は多大の損害を蒙り、山西方面に於ける最近の敵軍の状況並に治安状況は大體右の如くである。

山西方面：山西軍三個師、四川軍三個師、共産軍三個師、その他二個師であつたが三月下旬に至るにつれて、山西軍は激戦を繰り出し、我軍の猛撃を蒙つた。

中央軍は主として潼關附近より遠く河南、陝西方面に退却し、他の雜軍は中央軍の向つて黄河の支流に退却せしめ、山西軍主力は山西省西南角、豫州附近に共産軍の主力は榆社、武鄉、沁縣附近に集結してゐる模様で、軍部のため何れも大打撃を受ければ、豫西方面に撤退して上陸し、氣を癒さず敵軍に及ぶ見込みである。

天長節親兵式指揮官

中村考太郎中将は決定

(東京十二日)来る廿九日行はせられる天長節親兵式は、中村考太郎中将が指揮官に決定され、中村中将は吉本貞一少將に決定、十二日官報を以て発表された。

来る十六日羅馬に於て

新英伊協定正式調印か

(倫敦十一日)新英伊協定の正式調印は多分来る十六日羅馬に於て、駐伊英大使パーソンズ卿とアラバ外相との間に於て行はれること、ある模様であるが、エ、バーンズ卿は十一日英伊協定の骨子を互に如く報じてゐる。

一伊太初政府は西班牙から伊太利兵を撤退させる。
一英政府は聯盟を通じて伊太利のエチオピア併合承認を促進する。

一西國政府は夫々地中海に於ける相手國の權益を相互に明確にする。夫は地中海に於ける兩國の權益についての地中海に於ける...

在帝日本語維持会創立趣意書

各位

在帝同胞の發展と共に第二世學齡兒童年を追ふて増加するに隨ひ日本語教育の必要を感ぜ、在帝同業組合主として地方有志と相圖り十九百三十四年六月三日在帝日本語小學校を創立せり。

頽るに尔来四星霜所屆の目的に向つて遂に予想以上の効果を挙げつゝあるは同胞有志の熱意と敬愛の献身的努力に依るものなり。而して日本語小學校存立の意義は二世に於て日本語の修得に依り大和民族精神を感得し日本文化を理解せしむるの基礎を築き、善長なる日系國民市民の養成を目的とするものなり。此の目的達成の成否は民族發展の盛衰は關するものなり。此の目的達成の成否は民族發展の盛衰は關するものなり。此の目的達成の成否は民族發展の盛衰は關するものなり。

昭和十三年四月

小僧のふげ花録 (六) 星宇花

命を賭ける鮮金の有難さのみで、遂々お里を離れず金話し合...

足

奥の山尾の尾の長は使徒... 合同問題の花を咲かせた...

先

つ小僧の眼に映つた... のは何となく今昔の感...

人生暮れ合せて僅か... 五十年、人間と生れ...

靖國神社臨時大祭... 廿六日は公務員休日

カトル印蚊取線香

日本一番有名な安東の蚊取線香を御使下さい...

安東商会

市内デネンサ街五三二四〇

コステル内外科医院

CORNEJO KÖSTER

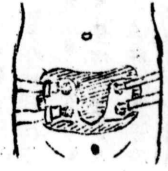
Medico Cirujano de Hospital Ramos Mejia

皮膚病、淋病、梅毒、毒瘡、肺病、心臓病、腎臓病、婦人科、小児科

新刊書籍雑誌

蔵田書店、新刊書籍雑誌、続々到着

健康の成は之の基 理健的健帯

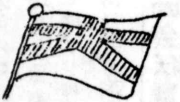


病弱者は健康に、健康者はより健康に、質を強化増進

慢性胃腸病、胃下垂、神経衰弱、不眠、便秘、無氣力...

ACADEMIA DE BAILES SARTITA

CANGALLO 1279, サリータ、は真面目なアカデミアである...



モンテビデオ丸、マニラ丸、ラプラタ丸、五月廿四日出帆、五月廿九日出帆、五月十二日出帆

ラキリアム・ブツ
ソックスベルド商会
代理人
グイセンテ
シアリエーロ

和 優良球根
各種販賣

RIVADAVIA 5871
U. T. 68-5982

日本産敷 建築
文化住宅
家具製造修理其他の御用命を願ふ
大工指物師 山本 玄
Av. del PEJAR 4817
U. T. 741 (Florida) 3150

歯科医療の
御相談に應じます
日本歯科
医学士 山本実雄
應接時間 午前八時~午後十時
市内エンターリオス街九七三
電話: ロ・ト・ニ・三・一・五・四・二

MEDICINAL
NEWS

28 - Suipacha - 28

- 淋病梅毒 治療代は全治後頂きます
- 肺結核新療法 月トソソ松の便あり
- 婦人科。電気治療科
- X光線科 (各科専門医十名)
- 診療科三(三) 午前九時~十二時
午後二時~八時
日曜祭日は午前中

SEMILLERIA
Juan Calé & Cia.

CASA MATRIZ
128 - PUEYREDON - 128
U. T. 47, CUYO 0065 y SUYO 0066
COOP. TEL. 1137, OESTE

Sucursal N.º 1: CORRIENTES 3175
U. T. 82, Mitre 1954-C T. 323, Oeste

Sucursal N.º 2: RIVADAVIA 2425
U. T. 47 Cuyo 8098-C T. 1105, Centr

琉球三味線教授
安里亀榮
U. T. 24, B. Orden 824

土曜日午後二時より
初等科
日曜日中等科

JUGUETERIA
TORRO
SARMIENTO 540
U. T. 34 - Defensa, 1687

東京二科 國分鉄藏
医学士
左記に於て歯科医療の
御相談に應じます
ドクトル・エドアルド・キンターニヤ歯科医院
市内ロドラス街六九二、四階
デパルタメント・電話三三一、三三〇

SASTRERIA "TORRO"
SARMIENTO 654
U. T. 35, Libertad 1392

品質本位
仕立入念
ハナハベ
より各種
トロー
高等
洋服店
二の底切致す
御多の方には
一割引致します

玩具卸買求むは
廉價在庫品豊富の
トロー玩具店で
日本製玩具あり
御申込次第型録送呈

Franz y Fritz
DANCING
348 PARANA 350

一階に新設致しました美しい
冬の花園の御披露致します
ヴリエテは毎日午後六時半より
小ルンチ附コペティン一ペソ
樂團は有名なカナロのオルケスタ
夜の部 西班牙及び各國の藝術の粹を
集めたヴリエテを二回開催
百名の麗人ダンサー!!
卅名の藝術家登場!!
日本人のモーションがサーピス致します

式シマフオ舊新
賣安大機ヤチンラブ
SALTA 431
U. T. 38, Mayo 0999

機シマフオ るな飲無全完の古中
すまし致賣取てに拂支件條好安格
(可もてに紙手の文本日ハ文註御のりよ方地)

ホフマン式フランチヤ機
並にカルデーラの修繕取付
一切廉價に引受け致します
ホフマン会社
指定機械師 トロロ・ゴメス
CHACABUCO 896
U. T. 34, DEFENSA 1192
TELÉFONO PARTICULAR
U. T. 23, B. ORDEN 4584

御旅館 双葉
御下宿 双葉
和洋食月極めに應じます
皆様の御愛顧を願ひます
尾崎幸千代
USPALLATA 812
U. T. 23 (B. Orden) 5735

CLINICA MEDICA CANGALLO

CALLE CANGALLO 1542

Atendida personalmente por su Director
Dr. A. GODEL

Médico Cirujano

最新式獨乙療法
淋病—根治療法
梅毒—六〇六号九一四号
婦人病心臓胃腸 各科専門
肺腎臟神経系統
X光線 デアテルミ 血液検査
診察日 自午前九時 至 午後三時 至 九時
日曜 祭日は午前中

無痛齒抜 ニベソ
セメント充填 五ベソ
金冠 拾五ベソ
金入歯 拾五ベソ
総入歯 六拾五ベソ
診察時間
午前九時より
午後八時まで

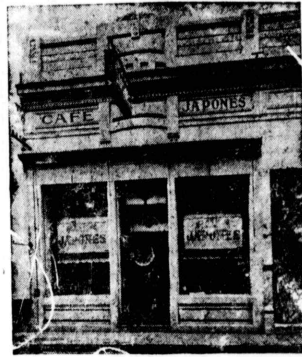
DR. E. BULJEVICH
BDO. DE IRIGROYEN 1404
U. T. 23 - (B. O.) 0279

CAFE JAPONES

de K. UCHINO

LAS HERAS 667

TUCUMAN



ツクマン市
内野喜吉

GRAN TALLER "EL ASAHI"

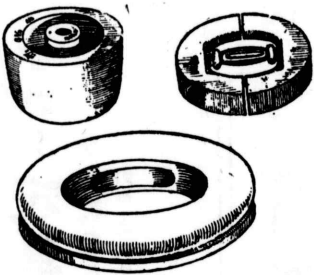
de MIYAZONO Hnos.

Casa Matriz:
CHARCAS 1873 - U. T. 44, JUNCAL 4366
Sucursales:
BME. MITRE 2511 - U. T. 47, CUYO 7159
RIVADAVIA 5202 - U. T. 60, Caballito 4738
BUENOS AIRES
CONSTITUCION 148 - U. T. S. Fernando 46
SAN FERNANDO, (F. C. C. A.)

BUIS GORI Hnos.

LIMA 1029

U. T. 23-2897



帽子木型製造工場

チントリアの仕事の
上下手は型番を
に依ります。
仕事は上手に不
には良い型を使
はふりませぬ。
弊工場はマテラ
マテラコラアルガ
「本」製造流行型
りゆり型を最安
價で供給し、田舎
の御注文にも應
じます。

KEROFIX

DEL Sr. ALEMAN (MARTIN)

M. SEITZ & Cia.

Talleres:
CHARCAS 4511
U. T. 71-9998

フランチャイ
カルデー用のケマ
ドリーステゲロセン
製作販売修繕取
付交換引受け。
当方はカーサボル
カン以末御馴染の
独り人で日本人間
数多くの顧客を有し
仕事は入念迅速電
話で御一報次第至
急参上致します。

Doctor Julio Lutzki

A L S I N A 2 4 7 4
U. T. 47 - 5329

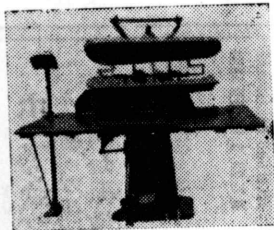
第一心臓肺臟喘息
第二肺臟呼吸器
診察 午後五時 至 八時
一醫師

FRANCISCO SANTERO

EX-MECANICOS Cia. HOFFMAN

Galle DANEL 1438

U. T. 45-0294



フランチャイ機械にセン
ブリアガ製作販賣

CAFE Y CERVECERIA LA "SATUMA"

有水武ニ
久松純雄
竹内武義
加藤吉隆

General HORNOS 54

U. T. 23 - 0526

BUENOS AIRES

Casa MALIS

DEFENSA 717
U. T. (88) 4382

カフェー店
純粋用衣類の
御用命は弊店へ
サコラシロ ミニ
黒チヤロニサハ
黒サコ ハン
上等全キスナハ



GRAN
MERCERIA
Y BAZAR

Casa fundada en el año 1928
PRIMERA Y UNICA CASA JAPONESA
Últimas Novedades Para la Moda
Creaciones en Artículos Japoneses

SE ATIENDEN PEDIDOS TELEFONICOS

優良品
廉価販賣
呉服大物・小間物
雑貨・最新流行婦
人用品及び御家庭
用品一切小賣店
同胞に限り割別
公認代理人
林甚次郎

CARLOS PELLEGRINI 1153
U. T. 41, Plaza 1306



Máquinas Hoffman

BELGRANO 525

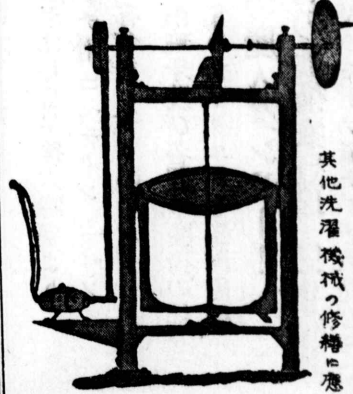
U. T. 34 - 1497

BUENOS AIRES

オファマン式フリンチャ機及
同会社製附屋品販賣店は武
市に於ては当店一軒のみです

TALLER MECANICO A. MENDEZ

CALLE VERA 737 - U. T. DARWIN 1108



カルボンチヤ機
乾燥機(寸廻しスモトル)
其他洗濯機等の修繕に應ず

La Misión del Japón

La comprensión del conflicto naval, que en su fondo no es más que la lucha entre Japón y Gran Bretaña, ésta última en su situación de decadencia tiene o trata de asegurarse aliada o aliadas para obstaculizar la expansión del Japón que progresa, puede darse cuenta con facilidad del malestar del Extremo Oriente, por cuyo bienestar y tranquilidad bregan los nipones.

La conferencia de las cinco potencias navales inaugurada en Londres el 9 de diciembre de 1935 ha fracasado por causa de la oposición anglo-americana que no quiso entrar al estudio formal de la proposición japonesa.

El plan japonés no podía ser más razonable ni más justo. En él se establecía la igualdad de derecho de Estado, para grandes y pequeñas potencias, apelando a la sinceridad de propósito de los gobiernos de las potencias, proponía la abolición de las armas ofensivas, porque, teniendo la buena voluntad que se manifiestan poseer por la paz, ninguna nación puede necesitar armas que no sean de carácter defensiva, indispensables por ahora para la seguridad nacional.

Jamás en conferencia alguna de carácter internacional fué presentado estudio de tanta trascendencia mundial como el proyectado para el desarme naval por el Gobierno del Japón. Sus fundamentos son irreprochablemente honestos, concisos y claros; de elevado criterio moral y de finalidad práctica. Están basados en los principios legales universalmente reconocidos, además de estar inspirados en los sentimientos profundos de la humanidad, de los cuales hacen tanto alarde los estadistas del Occidente en sus discursos, y propone conducir a los pueblos hacia la realización paulatina del eterno anhelo de los hombres: la paz sobre la tierra, la fraternización de todos los pueblos, que tarde o temprano tiene que venir.

El rechazo del plan japonés por los gobiernos citados, a los cuales se adhirió por razones de política europea, Francia e Italia, — éstos dos últimos simpatizan con el plan japonés — no tiene importancia ante la magnitud del proyecto que eventualmente ha de regir el destino del mundo, porque los pueblos harán que sus gobiernos lo acepten algún día, ya que la verdad y la justicia han de triunfar al final.

El Japón se retiró de la conferencia, disgustado naturalmente; pero el gobierno de Tokio sabía de ante mano que así sucedería, porque conoce por experiencia la psicología occidental. Ha enviado a Londres sus delegados para no desairar al gobierno de Gran Bretaña que tanto empuño mostró en invitarlo. Por eso hizo la salvedad antes de contestar la invitación, diciendo que el Japón no variaría su actitud firmemente sostenida durante las conversaciones preliminares del año anterior.

Los gobiernos de los Estados Unidos y de Gran Bretaña que son los interesados en mantener al Japón en inferioridad de condiciones de armamentos, creyeron, al parecer, que reunida la Conferen-

cia en Londres, y ante el acuerdo de las cuatro potencias, el Japón se vería obligado a ceder — como sucedió en Washington quince años antes — a pesar de su declaración y aspiraciones contrarias.

Los hombres que dirigen los destinos del Imperio Británico y de los Estados Unidos, se equivocaron una vez más, como en el caso del incidente Manchukuo, en la estimación de la resolución del Japón. En 1932 iniciaron la guerra comercial contra Japón y creyeron cosa fácil echar por tierra los frutos de 70 años de labor paciente de una nación industrial, por medio de calumnias y hostilidades verdaderamente inhumanas, para convencerse de su propio error, que les cuesta más caro que al ofendido que, no obstante, marcha hacia la prosperidad. El nuevo error de las potencias anglosajonas les obligará en un futuro cercano a aceptar el plan japonés y solicitar su apoyo para una acción concordante. Y entonces, sólo entonces, se dará cuenta el mundo del valor y la nobleza del proyecto naval japonés que fuera dejado a un lado en 1936.

Por otra parte, el Japón no variará su táctica y procedimiento en su política internacional, que es tan firme como su nacionalidad misma. Los juicios y temores de las potencias occidentales se basan en su creencia de que el Japón puede hacer lo que ellas harían en su lugar. He ahí la diferencia cabal. El Japón moderno, aunque europeizado en cierto modo, sigue siendo país oriental y además, es obvio, él está en su propia casa en el Extremo Oriente. Las potencias occidentales miran al Oriente con otro criterio muy distinto y sus actividades giran solamente en defensa de sus intereses materiales que les da la ambición del dominio, aún en este siglo XX.

El Japón no ha buscado pretexto para denunciar el tratado de Washington, ni obra bajo ningún impulso de vanidad para ostentar el poderío naval como lo hace cierta potencia del Pacífico. El Japón quiere garantizar su seguridad para mantener la tranquilidad dentro de su país, sin amenaza de ninguna especie. Su preocupación por asegurar el orden en su vecindad no obedece a otra mira.

El Japón, que ha sabido imponerse ante el mundo, que hoy le reconoce como una de las primeras potencias, anhela conducir a todos los países del Asia a una situación similar, a fin de que merezcan el mismo respeto por parte de todo el mundo. En otras palabras, el Japón quiere civilizar al Oriente no por simple altruismo, es verdad, pues esa es una condición "sine qua non" para su propio bienestar y para el progreso general del mundo. Es una aspiración generosa y humana que ningún pueblo del mundo ha concebido hasta ahora en la historia universal. Con el progreso y la civilización de los pueblos hoy atrasados, el mundo se unirá con más facilidad, fraternizándose los hombres unos con otros con el amor que no será ni cristiano, ni budista, ni mahometano, pero universal y humano.

Así, la actitud japonesa en China tiene sus miras diametralmente opuestas a lo que aparenta a los ojos de los occidentales que no conocen las cosas y condiciones del Extremo Oriente. El Japón está obrando con conciencia para salvar la antigua nación china, a la cual desea ver próspera y progresista. Cuando la China sea una nación debidamente constituida, gobernada de acuerdo con los métodos civilizados, no sólo ella sino todo el mundo deberá agradecer al Japón por sus consejos y sus ayudas materiales y morales, hoy por hoy mal interpretadas. "Magna est veritas et prevalebit".

Doctor José María Cantilo

MINISTRO DE RELACIONES EXTERIORES Y CULTO

En breve se hará cargo de la cartera de Relaciones Exteriores y Culto el doctor José María Cantilo, ex-embajador de la Argentina en Roma, quien llegará mañana a esta Capital.

El nuevo ministro de Relaciones Exteriores oriundo de Buenos Aires. Nació en 1877. Cursó sus estudios en París, donde en su juventud se dedicó especialmente a la literatura, colaborando en el "Mercure de France" y en la "Revue de Paris". Más tarde publicó asimismo un volumen de poesías titulado "Jardins de France".

Realizó varios viajes de estudio y de recreo, y en 1906 ingresó en la carrera diplomática. Fué secretario de la legación en Roma, encargado de negocios en Suiza e Italia. En 1908 fué ascendido a primer secretario, pasando a la legación de Brasil, donde le tocó actuar como encargado de negocios en 1910. Al asumir el mando el doctor Sáenz Peña, fué designado secretario de legación adscripto a la secretaria de la Presidencia de la Nación y posteriormente se le designó subsecretario de Relaciones Exteriores. Fué ministro Plenipotenciario de la Argentina en el Paraguay y en Portugal. Desde 1927 representó en la Liga de las Naciones como delegado argentino. Su actuación como embajador argentino en el Uruguay le valió la promoción para ocupar la embajada en Roma, cargo que desempeñaba cuando fué llamado por el presidente Ortiz para llenar el portafolio de Relaciones Exteriores.

Es un diplomático estudioso y activo que viene desempeñando cargos desde hace treinta y dos años. Su vasto conocimiento, y las experiencias que tiene adquirido por el contacto continuo con las grandes figuras diplomáticas del mundo, hacen del Dr. José María Cantilo, la figura prominente del gobierno del Dr. Ortiz.

El doctor José María Cantilo, en su calidad de Ministro de Relaciones Exteriores, es de hecho Presidente del Instituto Cultural Argentino-Japonés.

El advenimiento del embajador Cantilo como Ministro de Relaciones Exteriores de la Nación Argentina, es un hecho de gran importancia para este país: Es la primera vez que un diplomático de carrera, y en ejercicio de sus funciones de tal, que ha sido llamado a ocupar el sillón ministerial, que podrá ser un precedente para el futuro.

El presidente Ortiz ha fijado, con esta designación, una norma encomiable que habrá de ser respetada. Un ministro de Relaciones Exteriores no ha de ser una figura de la política interna aunque es necesario que un Secretario de Estado esté enterado de la situación política de su país. Es más importante que sea un hombre de la carrera diplomática, que sepa lo que es la política internacional, las condiciones y hombres de otros países, como el doctor José María Cantilo.

Al saludar al nuevo ministro de Relaciones Exteriores y Culto de la Nación Argentina que emana de la noble carrera diplomática, y que suple los grados con grandes méritos, augurámosle éxitos mayores en el desempeño de su alto cargo que el Gobierno de la Nación le confía.

Incluya un crucero alrededor del mundo en sus próximas vacaciones

Cuando vaya usted a Europa, hágalo pasando por el Oriente

PASAJES MUY VENTAJOSOS

Para informes dirigirse a:

Osaka Shosen Kaisha

Diagonal Roque Sáenz Peña 616. - 2.º piso

H. KATO

Única Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería

HERRETA 2097 y 2111 U. T. 21-1841

PAGINA DE ACTUALIDADES

ACTIVIDADES MILITARES EN CHINA

Muy contrario de lo que pretenden hacer creer las autoridades chinas adictas al general Chiang Kai-Shek, que anuncian victorias de sus tropas contra los nipones, las fuerzas japonesas continúan realizando sus operaciones de limpieza contra los ejércitos comunistas-chinos con todo éxito.

Tayuan, Abril 11. — Ante la ofensiva japonesa iniciada el día 8 del corriente, Siyang y la Región occidental de Tsinshien ha caído en poder del ejército expedicionario del Japón. En consecuencia en la mañana del día 10 el sitio de la fortaleza Tsienshien, centro de la acción comunista de la provincia de Shansi, ha sido completado.

Shanghai, 11. — La marina japonesa comunicó lo siguiente: La aviación naval perteneciente a la Paiyün; a su regreso el F. C. Canton-Hankow fué destruída a la altura de Kongkow y a la batería de Amoy sucedió la misma suerte. El cuartel general del ejército comunista en Hsingchow al ser bombardeada por la misma aviación, fué reducido a ceniza.

Peng-Pu, 11. — La contraofensiva del ejército comunista de ésta integrado por una división de artillería con unos 500 soldados fué dispersada sin dificultad. El ejército atacante huyó en diversas direcciones desordenadamente.

Tayuan, 11. — En la región montañosa de Wuchang existen diversas divisiones del ejército comunista; la ofensiva contra éstas está encargada a las unidades Koito, Sanematsu, Kudo e Ishite, quienes abrieron el fuego simultáneamente en la madrugada del día 8. Tsinyüan cayó en manos de la unidad Coito y los 4.000 soldados sitiados se rindieron después de haber sufrido más de 1.000 bajas. La unidad Sanematsu libró una batalla a 10 kms. al Sur de Tsinshien derrotando definitivamente al ejército rojo compuesto de 1.000 hombres. Las múltiples defensas del Sur de Tsinshien han sido rotas rápidamente durante el primer día de la ofensiva. La difícil posición en que se encontró la unidad Cudo no le permitió tomar otra medida que del exterminio de los dos batallones rojos que le ofrecieron la resistencia en el camino de Wuchang.

ECOS DEL DISCURSO DEL PRESIDENTE ARGENTINO

Tokio, 11. — Excelente impresión ha producido el texto del discurso pronunciado por el Presidente de la República Argentina, Dr. Roberto M. Ortiz, al presentar sus credenciales al nuevo ministro del Japón, doctor Uchiyama. Sobre todo ha conmovido el generoso recuerdo que ha tenido por los residentes japoneses en dicha República, haciendo presente su alta moralidad y su consagración al trabajo.

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 olo de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Ud. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

HA FRACASADO EL BOYCOTT ANTI-JAPONES

Washington, 11. — El conocido economista señor Spencer, al comentar la tentativa de Boycott a los productos japoneses en Estados Unidos, dice: "El proyectado Boycott a la mercadería japonesa ha fracasado en Estados Unidos. Las organizaciones obreras no respondieron al llamamiento de boycott, porque entienden que esas organizaciones están para fijar la acción del proletariado dentro de las propias fronteras, interviniendo en la acción gremial para reclamar el cumplimiento de las leyes de trabajo, propugnar por otras que sean necesarias y velar para que el trabajador perciba un salario justo, digno y remunerador.

Nosotros debemos añadir que cualquier acción, gestión o actividad ajena a este gran rol, está destinado sólo al fracaso sino que también hace peligrar la conquista de los derechos asignados a su propio rol de custodios del proletariado convirtiéndose en muñecos de subterráneas fuerzas políticas o de campañas económicas subvencionadas.

VOLUNTARIOS COREANOS

Keijo, 11. — En virtud de la ordenanza puesta en vigor que admite voluntarios coreanos en el ejército de la península de Chosen, se han presentado más de tres mil jóvenes coreanos que ofrecen sus servicios a la defensa nacional.

TORNEO INTERNACIONAL DE GIMNACIO DE PRAGA

Tokio, abril 11. — El delegado japonés, señor Hiroyuki Ikita, de la Universidad de Keio de esta capital, partirá en breve para tomar parte en el Torneo Internacional de Gimnacios que tendrá lugar en Praga en junio próximo.

LA RECONSTRUCCION DE LA CHINA CENTRAL

Shanghai, 11. — Por la organización del Gobierno de la Reforma, los 30 millones de habitantes de la China Central viven, gracias a la protección de las tropas niponas, en un estado de paz y tranquilidad que no conocieron durante muchos años. El estado general de la reconstrucción de la región puede ser resumida como sigue.

Han regresado a sus hogares los refugiados en otros lugares por causa de la guerra, alrededor del 70 olo, en algunas partes, como en Sco-chow, donde la población actual es mayor que la anterior.

Las autoridades del nuevo gobierno cuya principal preocupación es la de promover el bienestar del pueblo, ha hecho entrega gratuita de semillas a los agricultores, facilitándoles además los utensilios necesarios para la faena; prestado ayuda para la prosecución de la cría de gusanos de seda; procura introducir de la Manchuria y Formosa ganados que faltan para los mismos.

El comercio, que estuvo paralizado por la falta de mercaderías y la carencia del movimiento financiero merece también la atención del gobierno.

Existen más de 70.000 desocupados en Nankin y 20 mil en Shanghai.

La organización del gobierno cobra actividad en todas sus ramas, incluso la normalización de las instituciones educacionales.

LA COMPETENCIA MUNDIAL EN LA CONSTRUCCION NAVAL Y LA MARINA JAPONESA

Declaración del Almirante Yonai

Tokio, abril 8. — En declaraciones formuladas a la prensa, el ministro de Marina del Japón, almirante Yonai, dijo que los programas de construcciones navales de Estados Unidos y de Gran Bretaña, indican la intención de esas naciones de oprimir al Japón, en vista de lo cual esta nación se puede ver en la necesidad de construir una flota más poderosa.

Reiteró con énfasis el Almirante Yonai, que no se había alterado la política naval del Japón. No obstante, señaló que si las otras potencias proyectan un plan de expansión de sus fuerzas navales, Japón podría verse en la necesidad de reconsiderar su propio programa de construcciones, a fin de asegurar la defensa nacional y la paz en el Extremo Oriente.

Lamentó el ministro Yonai que Estados Unidos y Gran Bretaña recurran como excusa para sus proyectos al silencio del Japón. El Japón — terminó diciendo el Almirante — no construye ni proyecta construir por el momento naves de guerra más grandes; pero es natural que adopte medidas adecuadas frente a los programas de construcciones británico y estadounidense, ya que los programas navales son relativos.

UNA OPINION SENSATA AMERICANA

Washington, abril 8. — El señor Butler denunció energicamente la expansión naval de los Estados Unidos, manifestando que no era necesaria para la defensa del territorio continental de Estados Unidos, y se pronunció en favor del pronto abandono de Hawaii, Puerto Rico y las Islas Vírgenes. También se declaró partidario de la internacionalización del canal de Panamá, después de la cual se dividiría la actual flota en dos secciones: la del Atlántico y la del Pacífico.

Puso luego en ridículo la idea de una posible invasión de Estados Unidos, declarando que los ejércitos extranjeros que invadieran el país estarían tan debilitados al llegar al territorio de la Unión, que podrían ser derribados con plumas. Agregó que para tamaña empresa era necesario contar con 1.000.000 de hombres y que todos los buques del mundo no bastarían para su transporte.

ADRIANO ZAPPA, CAMPEON ARGENTINO DE TENNIS

Finalizó el domingo último el campeonato individual de tennis de caballeros, sobre césped, del Hurlingham Club, en el que se adjudicó la victoria, por sexta vez, el diestro aficionado del Belgrano Athletic Club, Adriano Zappa, quien al vencer a Ruy Andrés Sissener, en tres sets consecutivos, inscribió su nombre en el trofeo "Boadle".

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

El Problema Naval

El problema naval que promueven los Estados Unidos y Gran Bretaña con sus satélites Francia y Rusia, en el fondo, no es sino el mismo que las dos primeras potencias habían preparado oculta-mente antes de citar a la reunión de Washington en 1921, en cuya conferencia Japón fué sorprendido con la mala fé de Gran Bretaña que aquél ni sospechaba.

A fin de ilustrar al lector sobre la verdad de lo que ocurre con la ambición británica, que es la causante de la cuestión naval que agita al mundo en este momento, consideramos útil citar de nuevo aquí el discurso del delegado japonés, almirante Nagano, pronunciado en la Conferencia Naval de Londres en diciembre de 1935:

"El nuevo tratado, a juicio del gobierno del Japón, debería estar basado en la idea fundamental de fijar para las grandes potencias navales un límite común de los armamentos marítimos, tan bajo como sea posible. Al mismo tiempo, las fuerzas ofensivas deben quedar reducidas considerablemente, y calculadas las fuerzas defensivas de manera que se realice una medida substancial de desarme y se establezca una situación internacional exenta de amenaza y de agresión.

"Tratamos de establecer normas de no amenaza y de no agresión entre las grandes potencias, reduciendo en cuanto sea posible el pesado fardo impuesto por la competencia armamentista. Como condición previa, proponemos la fijación de un límite máximo común de los armamentos navales, ya que el Japón, en convicción absoluta, rechaza el viejo sistema de las proporciones entre las armadas, y que el reconocimiento de la igualdad en la defensa nacional de cada nación permitirá esperar un acuerdo justo y equitativo. El límite máximo común deberá ser el más bajo posible, con el fin de lograr un desarme efectivo.

Pedimos, además, la abolición total o la reducción radical de todos los buques ofensivos, como portaviones, buques de batalla y cruceros de la clase "A", a fin de eliminar en lo posible las posibilidades de agresión. Respecto a las unidades defensivas, como los cruceros de la clase "B", los contratorpederos y los submarinos, sostenemos que cada nación debería ser libre para asegurar su defensa en condiciones satisfactorias, por el mantenimiento de las unidades más apropiadas a llenar sus necesidades. Al respecto, nosotros jamás podríamos aceptar la supresión de los sumergibles".

La conferencia de Londres fracasó, según es notorio. La delegación japonesa, en vista de que sus propósitos no eran escuchados, prefirió retirarse. El almirante Nagano, en la nota que al efecto envió al presidente de la Conferencia decía: "Tengo el honor de notificarle por la presente que, como se ha puesto suficientemente de manifiesto en la sesión de hoy de la primera comisión, que principios básicos comprendidos en nuestras proposiciones para la limitación de armamentos navales no pueden lograr el apoyo general, nuestra delegación ha llegado a la conclusión de que no puede continuar participando eficazmente de las deliberaciones de la actual conferencia. Sin embargo, quedamos firmemente convencidos de que nuestra propuesta es una de las mejor calculadas para obtener un desarme eficaz, y lamentamos no poder suscribir, por las razones que hemos expuesto repetidas veces, los planes de limitación cualitativa y cuantitativa sometidos por otras delegaciones.

En aquel entonces, como ahora, los órganos tendenciosos de Gran Bretaña y Estados Unidos trataron de criticar la actitud japonesa, porque el Imperio del Sol Naciente no quiso someterse a la voluntad de esas dos potencias, y circularon por el mundo informaciones que en nada favorecían al Japón.

Y, agitada así la opinión pública del Japón, el ministro de Relaciones Exteriores, señor Hirota se vió obligado a hacer declaraciones pertinentes de trascendental importancia, destinadas para el mundo entero, durante la sesión de la Dieta, el día 20 de enero de 1936, cuyo tenor era lo siguiente:

"Para contrarrestar los efectos de las noticias que circulan por el mundo de que se traman en algunos círculos de Gran Bretaña y Estados Unidos, medidas anti-japonesas, con el pretexto del retiro del Japón de la Conferencia Naval, promover hostilidades contra el Japón, obstaculizar su expansión, y de tratar de arriñonarlo en el Extremo Oriente, el Gobierno del Japón considera oportuno advertir a todas las naciones, con una declaración categórica y clara la política básica del Japón, destruir las sospechas y proclamar en alto el principio de la libertad de comercio.

"El gobierno del Japón, ha considerado siempre que el mantenimiento del principio del libre comercio es la política más eficaz para la paz del mundo, y adelantando a las demás naciones, ha sostenido invariablemente ese principio, permitiendo el libre movimiento de hombres y mercaderías de cualquier parte del mundo en todos los territorios del Imperio.

"Sin embargo, si consideramos la actitud del mundo actual para con el Imperio, limitan o rechazan las mercaderías baratas y buenas del Japón, por una parte y por otra, tienen prohibido, de hecho, la entrada de los súbditos del Japón en algunos territorios.

El gobierno del Japón estima que tales actitudes inhumanas son, precisamente, los obstáculos radicales que no permiten mantener la paz del mundo, porque son insostenibles. Por eso exige del mundo el reconocimiento del libre tráfico de hombres y cosas, como condición "sine qua non" para la existencia del Estado en la situación actual del mundo, para que así contribuyan todas las naciones a garantizar la libre expansión pacífica del Japón, libre concurrencia a todos los mercados y la adquisición de materias primas en todas partes.

TEXTILES DE SEDA

EN EL PAIS QUE PRODUCE MAS DEL 80 % DE LA SEDA NATURAL DEL MUNDO

En 1935 había en el Japón 72.311 fabricas con 334.845 telares y 290.912 operarios. La producción total del año fué avaluado en 632.933.188 yens, compuestos de los siguientes renglones principales: Crépes 83 millones; habutas, 22 millones, seda Fuyi, 28 millones; satin, 27 millones; seda cruda, 7 millones, etc.

INDUSTRIA DE LA SEDA ARTIFICIAL

En 1926, Japón producía solamente 5.000 libras de hilados de rayon. En 1935, produjo 225.024.000 libras y en 1936, 276.505.100 libras, superando así

a la producción norteamericana que lo fué de 275.000.000.

Es, pues, en la actualidad, el país que más produce seda artificial.

LLEGO AL JAPON EN Dr. ALBERTO PELICANO

TOKIO, 12. — Llegó hoy el Dr. Alberto Pelicano, primer universitario argentino becado por el Instituto Internacional de Estudiantes.

¿HA MUERTO CHIANG-KAI-SHEK?

SHANGHAI, 12. — Informaciones no confirmadas anuncian que habría muerto el Mariscal Chiang-Kai-Shek como consecuencia del audaz ataque aéreo de un aeroplano japonés a Chengshu.

TOKIO, 12. — Acerca del audaz ataque dirigido por un avión japonés contra el General Chiang-Kai-Shek mismo, la marina japonesa opina lo siguiente: El ataque aéreo sobre Chengshu ha terminado definitivamente con las autoridades del ex-gobierno chino-nacionalista. Más que probable es un hecho casi seguro que el General Chiang-Kai-Shek y sus ministros hayan estado en el lugar de la ceremonia de la inauguración de la Escuela Militar.

SHANGHAI, 12. — El bombardeo de la fortaleza de Cheunshu por la aviación naval japonesa ha sido tan decisiva que no quedó ni el rastro de la antigua guarnición. En el mismo día, es decir el 10, al inaugurarse la Escuela Militar últimamente fundada, un avión de la misma escuadrilla atacó audazmente, lanzando una bomba en el mismo lugar donde se realizaba la ceremonia de la inauguración, con asistencia de las autoridades del gobierno nacionalista chino, inclusive el General Chiang-Kai-Shek y sus ministros Suug-Tsu-Weng y Chung-Chi-Chung. Aún hasta hoy, después de dos días del suceso, no hay ninguna noticia de los citados. Muy probable es que hayan fallecido como consecuencia del ataque aéreo.

LOS EJERCITOS CHINOS SE DIVIDEN

PEIPING, 12. — En el Noroeste de la provincia de Shensi se produjo una disensión entre el ejército comunista y el de la provincia de Shien. Por la difícil situación creada por esta disidencia, se cree inevitable la ruptura entre ambos ejércitos. Las fuerzas defensoras de Hsinkowchen fueron precipitadamente, cayendo Tsinsiang en poder de los atacantes. De inmediato el F. C. Yuanpingchen-Tayüan fué restablecido, asegurando el bienestar a las poblaciones de la región.

PEIPING, 12. — En la margen septentrional del río Amarillo, en la provincia de Shatsi, 300 soldados comunistas fueron exterminados cuando cruzaban el citado río.

Sastrería Japonesa

Fundada en el año 1916

de S. Katayama

PIEDRAS 572

U. T. 33-5452

KOKUSAI BUNKA SHINKOKAI

Sociedad de Fomento de Cultura Internacional

TOKIO — JAPON

Agente en Buenos Aires: G. Yoshio Shiya

Facilita gratuitamente toda clase de informaciones culturales relacionadas con el Japón. Atiende personalmente todos los días hábiles, menos sábados de 16 a 18 horas en la secretaría del Instituto Cultural Argentino-Japonés.

Museo Social Argentino, Viamonte 1435.

Página Argentina

"EL OMBU"

Por W. H. HUDSON

Publicamos a continuación un fragmento de afamado libro del naturalista William Henry Hudson, obra que la Comisión Argentina de Cooperación intelectual ha incluido en la antología titulada "EL PAISAJE Y EL ALMA ARGENTINA", que acaba de publicar con fines de difusión cultural argentina en el exterior, traducida al francés. La obra del señor Hudson está escrita en inglés, pues W. H. Hudson era argentino pero vivió en Inglaterra desde la edad de treinta y tantos años, y dedicado al estudio y la literatura, produjo trabajos tan puros y meritorios bajo este punto de vista que, en una encuesta realizada por una revista de Londres hace un cuarto de siglo, fué declarado el mejor inglés el suyo.

"EL OMBU" es una historia campesina argentina, en la que el escritor describe las costumbres y modos de la gente que él conoció en su juventud. La versión castellana es del señor Eduardo Hillman, escritor chileno.

El señor W. H. Hudson era tío político del señor G. Yoshio Shinya.

Esta historia, de una casa que existió en otro tiempo, me la contó a la sombra, un día de verano. Nicandro, aquel viejo a quien todos nos gustaba escuchar, pues recordaba y podía relatar correctamente, la vida de cada persona que había conocido en su pago, cerca de la Laguna de Chascomús, en la pampa, al sur de Buenos Aires.

I

En toito este partido, aunque usted vaya siete leguas pacá y payá, no encontrará un árbol tan grande como este ombú, creciendo solo ande no hay una casa; por esto es que todo el mundo lo conoce por el nombre de El Ombú, como si hubiera uno solo; y el nombre de esta estancia, aora sin dueño y arruinada, eh' El Ombú. De una de las ramas máh'altas, si usted puede encaramarse, verá a unas veinticinco cuadras de aquí, la laguna de Chascomús, de un lago a otro, y el pueblo en su crilla. En un día despejado podrá ver hasta cosas más chicas: tal vez una raya colorada cruzando el agua... Una bandada de flamencos volando asígn su costumbre.

Un gran árbol creciendo sólo, sin casa cerca, sólo quedan los cimientos de una casa; pero, tan cubiertos de pasto y yuyos, que hay que mirar muy bien pa encontrarlos. Cuando ando con mi najada y ovejas en el verano, sabo venir pacá a sentarme a la sombra. Está cerquita del camino, y forasteros, tropas de carretas y animales y la galera, toitos pasan por ay. A veces, a mediodía, me acuesto a algún parjuerano descansando a la sombra, y si no está durmiendo, platicamos, y él me cuenta de aquel gran mundo que estoh-ojos jamásh han visto. Dicen que la casa ande caí la sombra de el ombú, padece desgracias, y que, por último, caí en ruinas; y en esa casa, que ya no existe, daba la sombra del ombú a la caída de la tarde toitos los días de verano. También dicen que los que se sientan mucho a su sombra, se güelven locos. Tal vez, señor, los güesos de mi mollera sean más duros que los de la generalidá de los hombres, pueh'e acostumbrao a setnarme aquí toíta mi ida, y aunque ya

estoy viejo, entoavía no he perdido el mate. Es verdá que por fin, le vino la mala suerte a la casa; pero, la aflicción y la muerte que le llega a todo cristiano; y toda casa, señor, por se derrumba.

¡Oye el mangangá allá arriba, entre las ramas! ¡Mireló! ¡Parece una bola de oro relumbroso colgada en el aire entre las hojas verdes, zumbando tan juertazo!

¡Ay, señor! ¡Los años que han pasado y la gente que ha vivido y muerto me hablan lo mismo de fuerte cuando estoy sentado aquí solo! Estos son solamente recuerdos; pero hay otras cosas que güelven del pasado: y esas son las animas en pena. A veces, a media noche, se ve lejos toito el árbol, donde las ráfech' asta las últimas hojas, relumbrando como un juego blanco. ¡Qué podrá ser ese juego, señor, que tanto han visto, y que, sin embargo, no chamusca las hojas de los árboles? Y, a veces, cuando un forastero se acuesta aquí a echar una siestita, siente pasos que van y vienen, oye cacarar gallinas y torear perros, y a niños que gritan y se riden, y las voces de gente que habia; pero, en cuanto se levanta pa escuchar, los sonidos se apagan, y, por último, parecen dentro al árbol con un suave murmullo, como el que hace el viento cuando sopla por entre las hojas.

Dende qu'era chico, a la edad de seis años, cuando ya podía montar un petizo, he conocido ese árbol. Se veía entonces, lo mesmito que hoy día; a gatas podían rodearlo cinco hombres con los brazos estirados. Y la casa estaba ay, ande usted ve esa ortiga; era larga, chata y ladrillo cuando habiar mui pocas casas de ladrillos por este partido, y tenía techo de tejas.

<p>"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904</p>	<p>T. NISHIZAWA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5489-2981</p>	<p>F. KANEMATSU y Cia. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p>H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>S. YAMADA y Cia. Importadores MORENO 2080 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS RIVADAVIA 1210 (4o. piso) U. T. 38-3239</p>	<p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p>IIDA y Cia. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 38-2683</p>	<p>G. KATO (C. YUASA) Representante de KATO BUSAN KAISHA Ltd. Av. Roque Sáenz Peña 825 U. T. 35-5696</p>
<p>KATSUDA y Cia. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p>N. HARA y Cia. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p>S. ANDO y Cia. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p>Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bm6. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-0978 CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1452. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Via. monte 1435. ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4993. COMPAÑIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 0251</p>	<p>S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cia. CANGALLO 499 3er. Piso Escr. No. 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	
<p>N. IKEDA The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p>TARO MURAI Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189</p>	<p>K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>	